

2018年3月期第2四半期決算

IR説明会資料

株式会社 極 洋 (証券コード: 1301)

<http://www.kyokuyo.co.jp>

食卓に、海のおいしさと、おどろきを。



<http://www.seamarche.jp>



目次



2018年3月期 上半期の概況

- ・当社を取りまく環境 3ページ
- ・トピックス 4～ 5ページ

2018年3月期 第2四半期 決算概要

- ・計算書類 7～15ページ
- ・事業セグメント別の状況 16～22ページ

2018年3月期 下半期施策及び業績予想

- ・事業セグメント別の施策 24～25ページ
- ・業績予想 26ページ
- ・設備投資計画 27ページ



2018年3月期 上半期の概況



当社を取りまく環境



経済・社会情勢

- 雇用・所得環境の改善を背景に景気は緩やかに回復
- 新興国経済の成長鈍化や欧米の政治リスクが懸念材料
- 海外経済の不確実性や金融資本市場変動など依然不透明

水産・食品業界

- 食の安心・安全に対する高い関心
- 少子高齢化による国内マーケットの変化
- 人手不足による労働コストの増加
- 世界的な水産物需要の増大による買付コストの上昇

□ Kyokuyo America Corporation NY営業所を開設 【4月】

北米西海岸のロサンゼルス営業所と連携しながら生食用を中心とする当社製品の全米での販売拡大に向けて東海岸のニューヨークに営業所を新設。

□ カヌースラローム・ジャパンカップに冠協賛 【4月】

日本カヌー連盟のオフィシャルパートナーとして、カヌースラローム・ジャパンカップ「キョクヨーシリーズ」の国内全7戦に冠協賛し、各大会後には環境保全活動の一環として「クリーンリバー活動」を実施。



□ 業績連動型株式報酬制度の導入を決定【6月】

役員報酬制度の見直しを行い、当社第 94 回定時株主総会において、取締役（社外取締役を除く）を対象とした、新しい業績連動型株式報酬制度の導入を決議。

□ 完全養殖クロマグロの新ブランド名を発表【8月】

(株)極洋とフィード・ワン(株)の合併会社である極洋フィードワンマリン(株)は、成魚となった完全養殖クロマグロを「本鮪の極 つなぐ <TUNAGU>」と名付け、2017 年 11 月からの出荷開始を発表。





2018年3月期 第2四半期 決算概要



計算書類



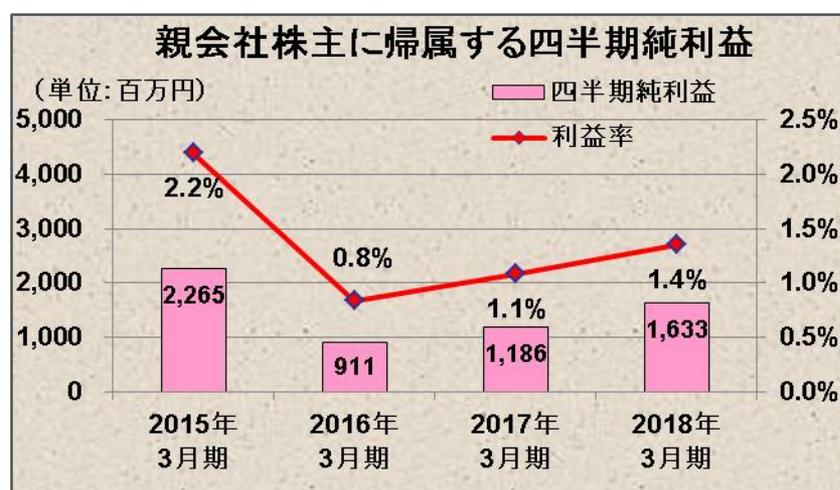
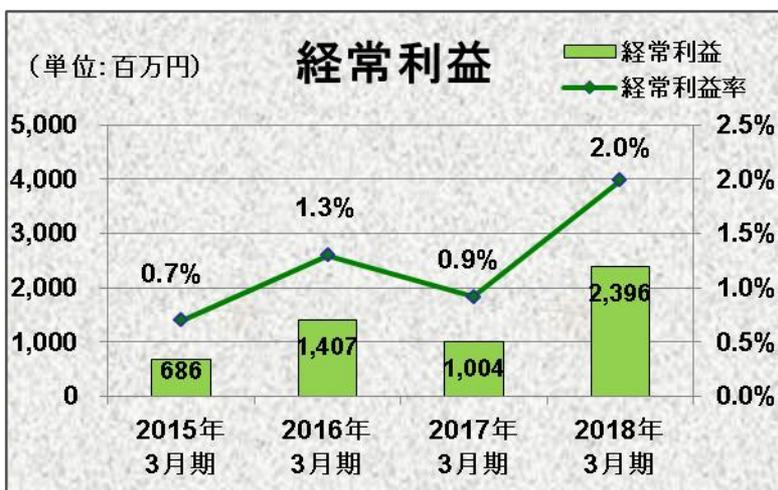
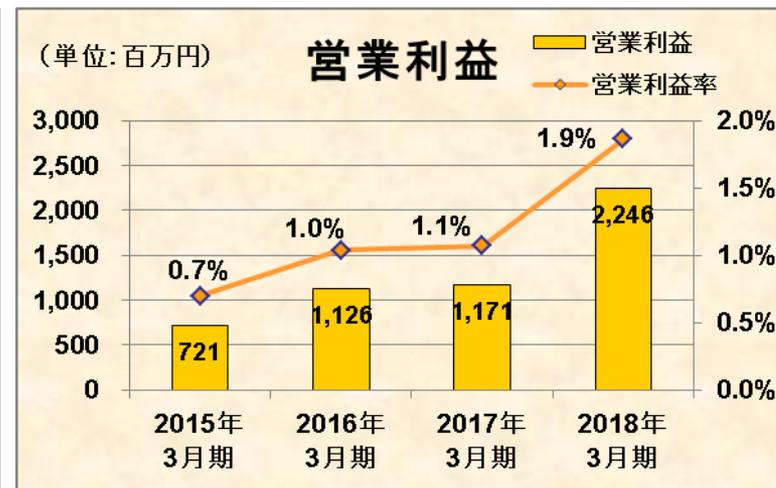
1. 連結損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前年同期比		当初 通期予想	当初通期予想比
	第2四半期連結累計期間		(増減金額)	(増減比率)	連結累計期間	
	2017年3月期 (前期)	2018年3月期 (当期)			2018年3月期 (当期)	(達成率)
売上高	109,570	120,458	10,887	9.9%	250,000	48.2%
営業利益	1,171	2,246	1,075	91.8%	4,000	56.2%
営業外収益	320	349	29	—	—	—
営業外費用	486	200	△286	—	—	—
経常利益	1,004	2,396	1,391	138.5%	4,000	59.9%
特別利益	608	5	△603	—	—	—
特別損失	16	2	△13	—	—	—
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,186	1,633	446	37.6%	2,700	60.5%

- ・ 当初予想：2017年5月11日に発表した2018年3月期業績予想数値
- ・ 売上高：水産商事が伸長し、前期比108億円の増収
- ・ 営業利益：水産商事が順調に推移し、鰹・鮪、冷凍食品の収支改善などにより前期比10億円の増益
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益：固定資産の処分益の減少などにより前期比4億円の増益

2. 第2四半期連結業績の推移





計算書類



3. 個別損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前年同期比	
	第2四半期累計期間		(増減金額)	(増減比率)
	2017年3月期 (前期)	2018年3月期 (当期)		
売上高	104,375	116,316	11,941	11.4%
営業利益	1,225	1,526	300	24.6%
経常利益	1,087	1,555	468	43.1%
四半期純利益	921	1,315	394	42.7%

- ・売上高：水産商事が伸長し、前年同期比119億円の増収
- ・営業利益：水産商事が順調に推移し、冷凍食品、鰹・鮪の収支改善などにより前年同期比3億円の増益



計算書類



4. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2016年 9月末	2017年 9月末	前年 同期比		2016年 9月末	2017年 9月末	前年 同期比
資産の部				負債の部			
流動資産	82,275	94,683	12,408	流動負債	52,734	65,871	13,136
受取手形及び売掛金	30,302	38,490	8,187	内、短期借入金(含むCP)	33,592	43,611	10,019
商品及び製品	38,228	38,140	△88	固定負債	30,218	27,242	△2,976
仕掛品	2,348	2,762	413	内、長期借入金(含むCB)	25,127	22,118	△3,008
原材料及び貯蔵品	3,988	5,991	2,002	負債合計	82,953	93,113	10,160
その他	7,405	9,298	1,892	純資産の部			
固定資産	24,278	25,122	843	株主資本	24,066	26,315	2,248
有形固定資産	16,887	17,054	166	その他の包括利益累計額	△815	△3	812
無形固定資産	862	476	△386	非支配株主持分	349	380	30
投資その他の資産	6,528	7,591	1,062	純資産合計	23,600	26,692	3,091
資産合計	106,554	119,806	13,252	負債及び純資産合計	106,554	119,806	13,252



計算書類

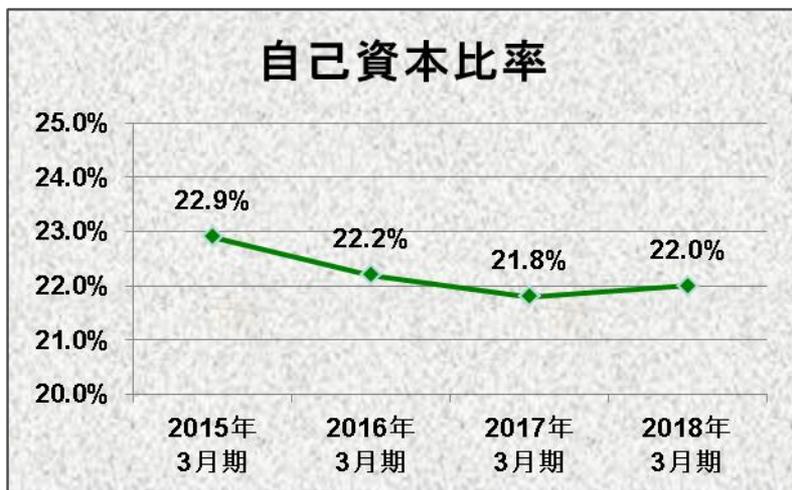


5. 連結キャッシュ・フロー計算書

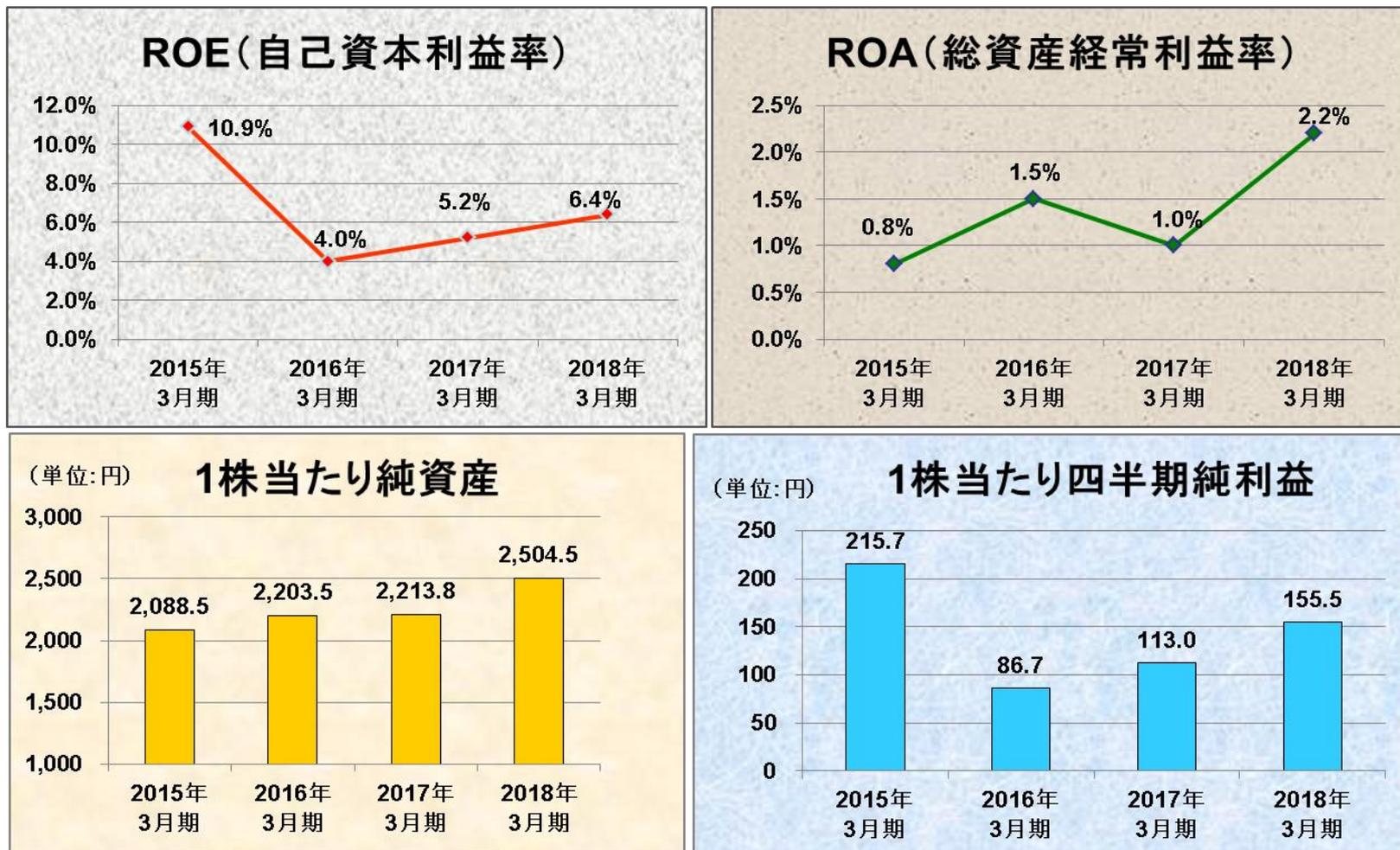
(単位:百万円)

		第2四半期連結累計期間		
		2016年3月期(前期)	2017年3月期(当期)	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前四半期純利益	1,597	2,399	801
	減価償却費	902	927	24
	売上債権の増減(△は増加)	△5,930	△9,419	△3,489
	たな卸資産の増減(△は増加)	△7,785	△10,140	△2,354
	仕入債務の増減(△は減少)	2,848	5,025	2,176
	その他	195	641	446
	小計	△8,171	△10,567	△2,395
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△1,590	△661	928
	その他	1,546	267	△1,279
	小計	△43	△394	△350
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金の増減(△は減少)	9,315	14,121	4,805
	長期借入れの増減(△は減少)	△99	766	866
	その他	△972	△728	243
	小計	8,244	14,160	5,915

6. 第2四半期連結財務指標の推移



7. 第2四半期連結経営指標の推移





計算書類

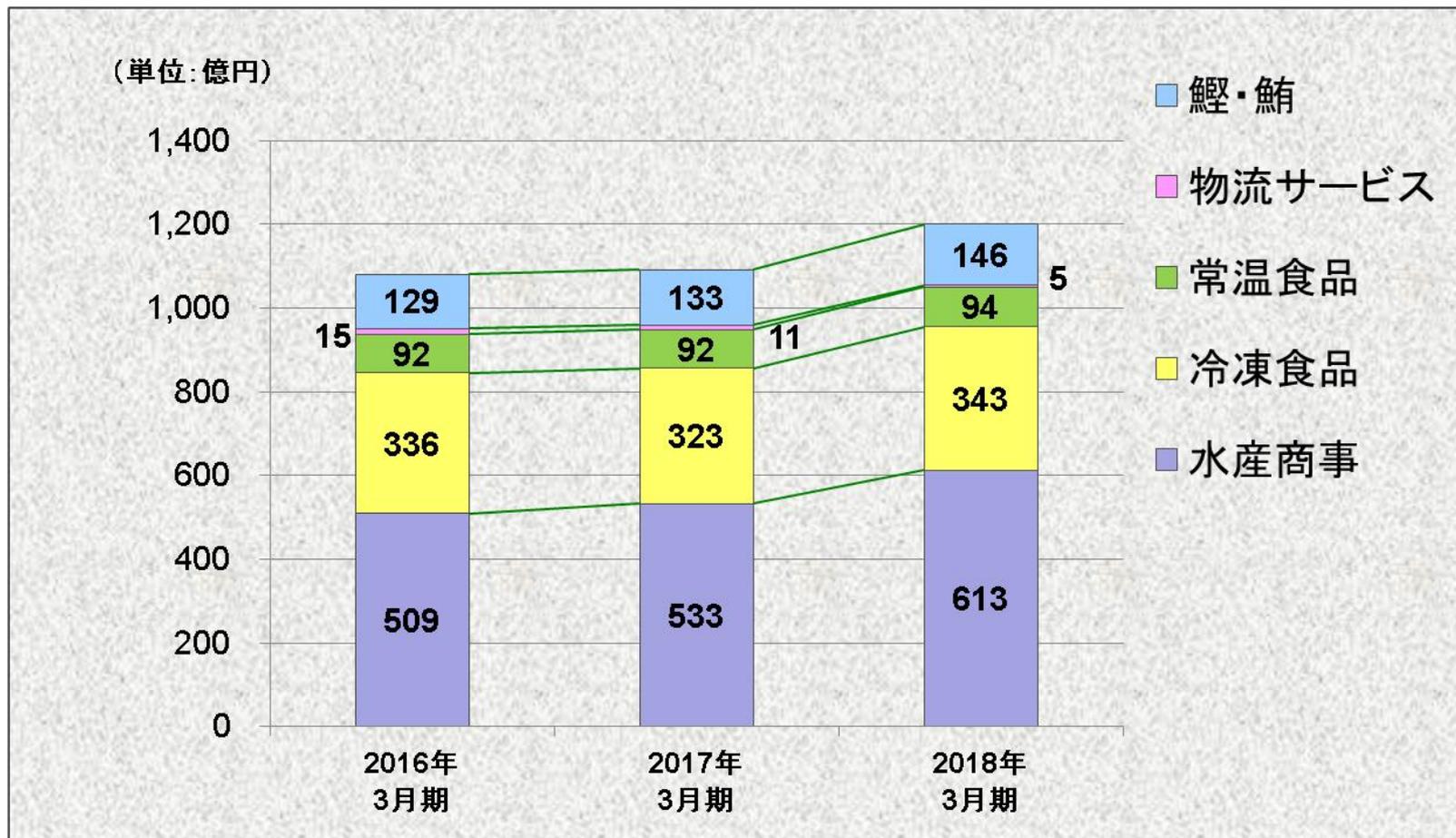


8. 事業セグメント別 売上高及びセグメント利益<連結>

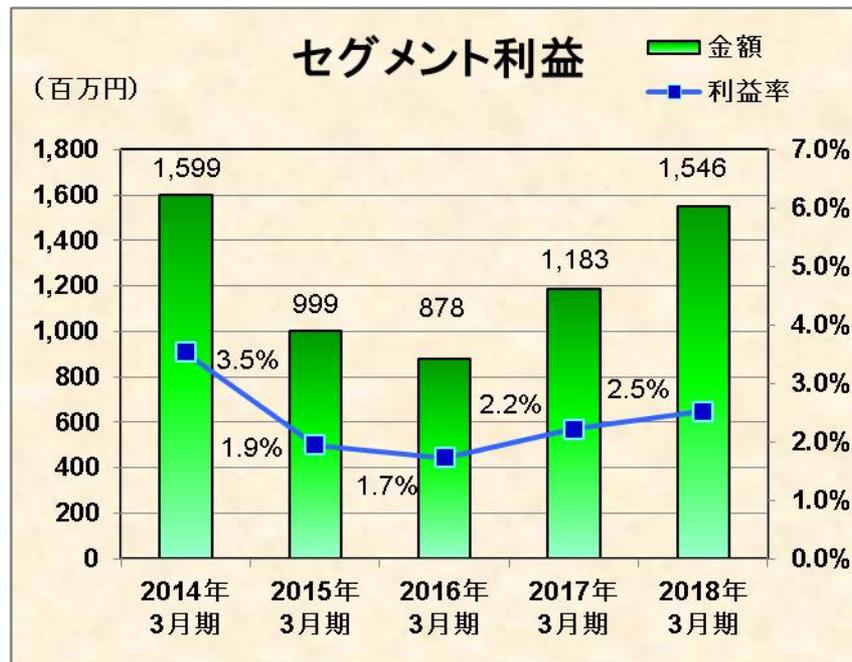
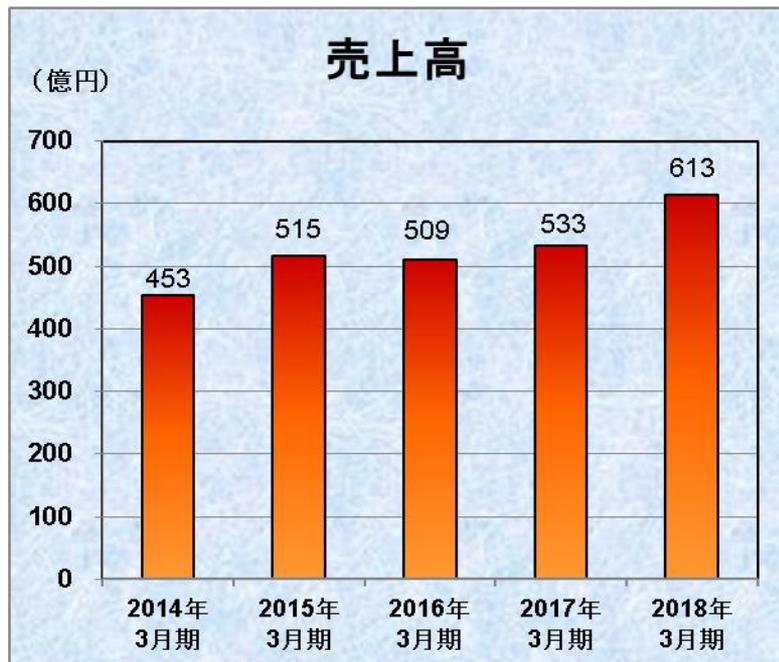
(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	第2四半期連結累計期間		前年同期比	第2四半期連結累計期間		前年同期比
	2017年3月期(前期)	2018年3月期(当期)		2017年3月期(前期)	2018年3月期(当期)	
水産商事	53,377	61,325	7,948	1,183	1,546	363
冷凍食品	32,364	34,334	1,970	165	554	389
常温食品	9,216	9,455	239	195	220	25
物流サービス	1,113	510	△602	16	117	100
鯉・鮪	13,317	14,648	1,331	100	581	480
その他	182	182	0	△490	△774	△283
合計	109,570	120,458	10,887	1,171	2,246	1,075

9. 事業セグメント別 第2四半期売上高比較<連結>



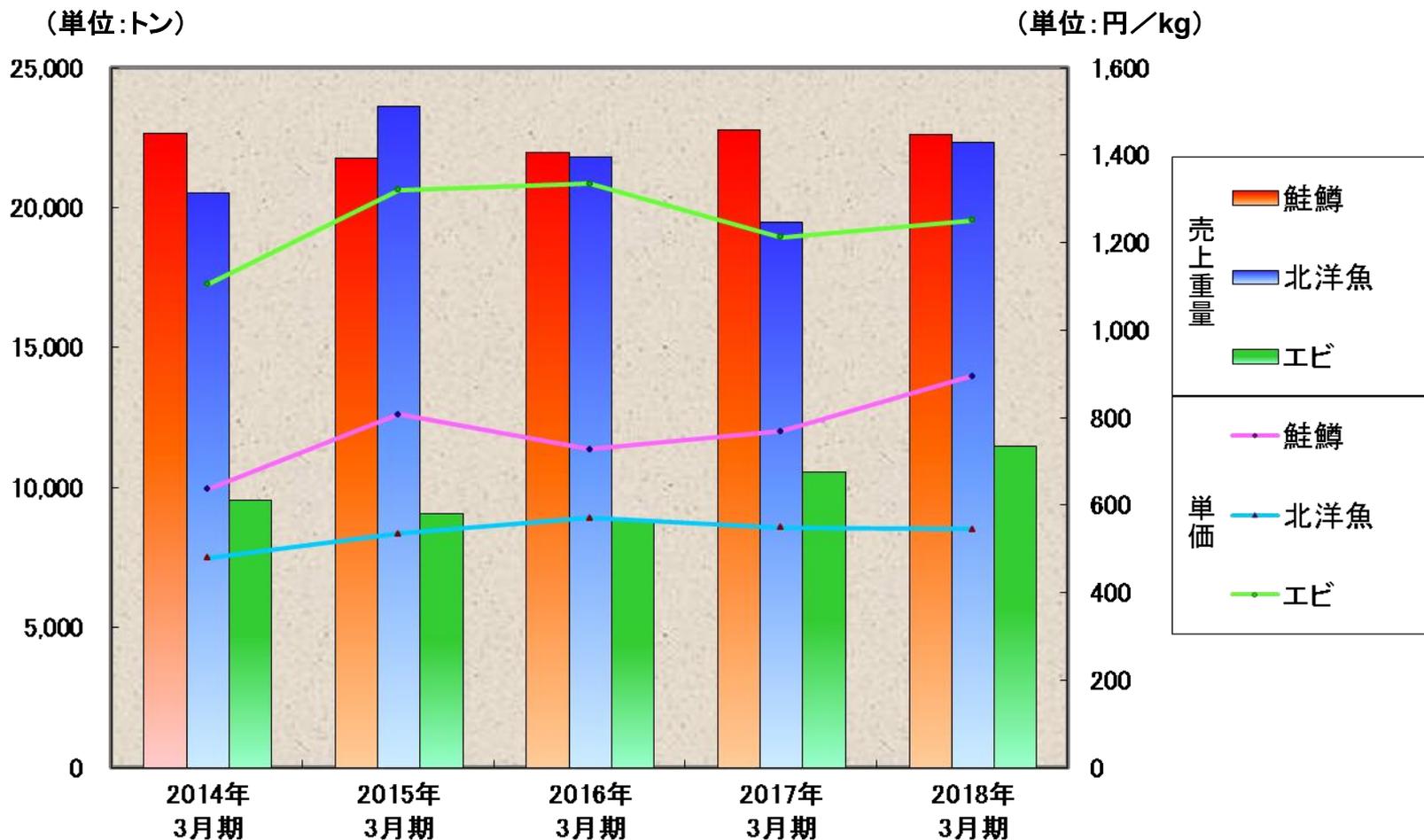
1. 水産商事事業<連結>…水産物の買付及び販売



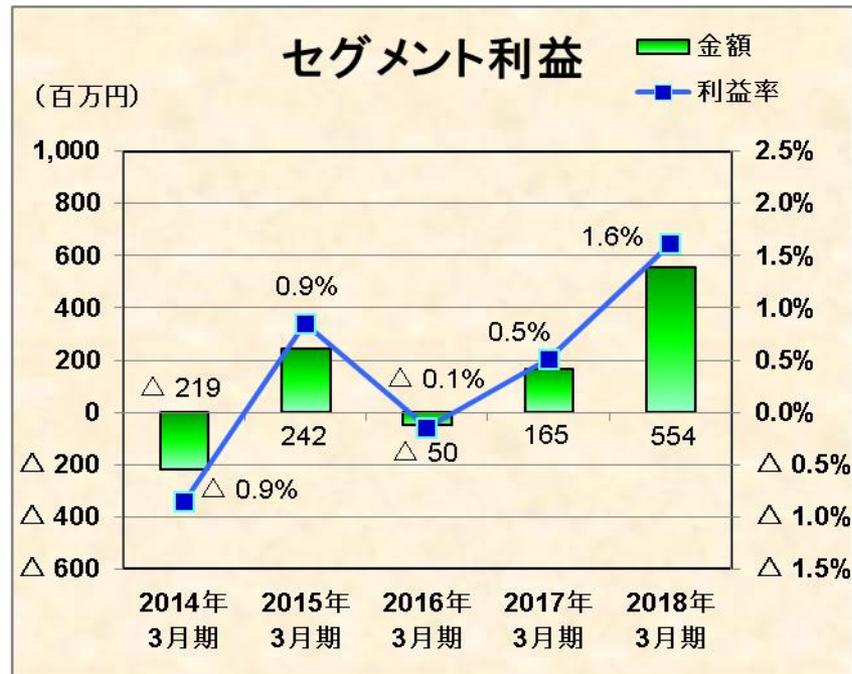
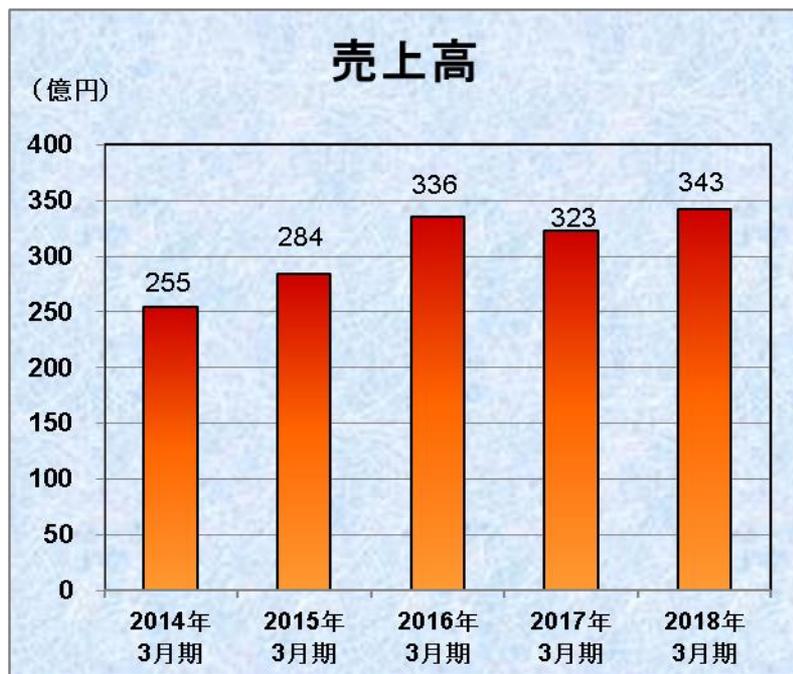
【当期の状況】

- 増収増益
 - 鮭鱒、カニ、エビ、北洋魚など主要魚種の販売が順調に推移
 - 定塩サケ製品などの付加価値製品の拡販に注力
 - 米国向けを中心に海外での水産物販売を推進

水産商事事業〈個別〉…魚種別売上重量・単価推移



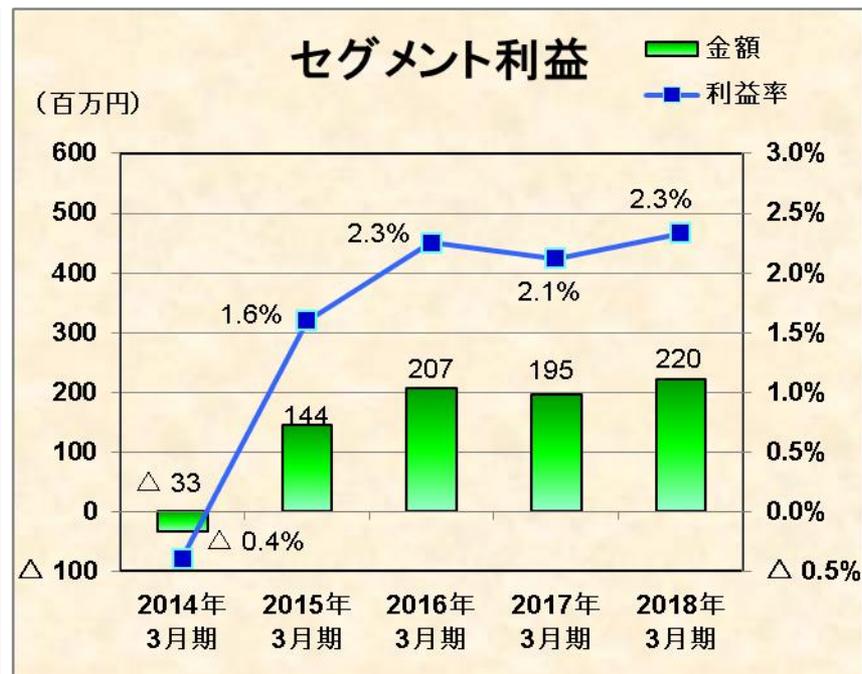
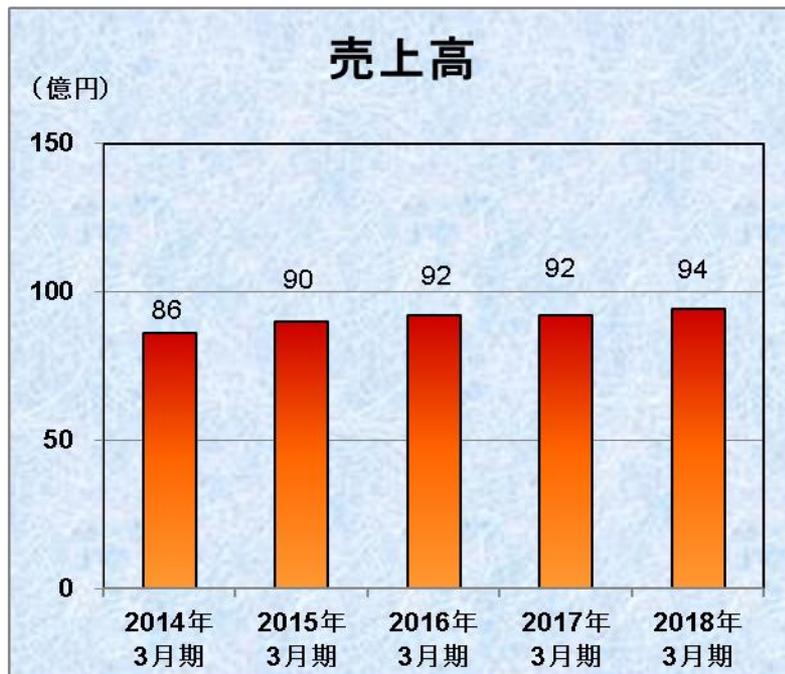
2. 冷凍食品事業<連結>…冷凍食品の加工及び販売



【当期の状況】

- 増収増益
 - 寿司種を中心とした生食用商品や「だんどり上手」シリーズなど加熱用商品を拡販
 - 水産フライやカニ風味かまぼこなどの自社工場製品の販売が伸長
 - 家庭用冷凍食品の塩釜工場製品をはじめ国内直系工場の生産量が順調に推移

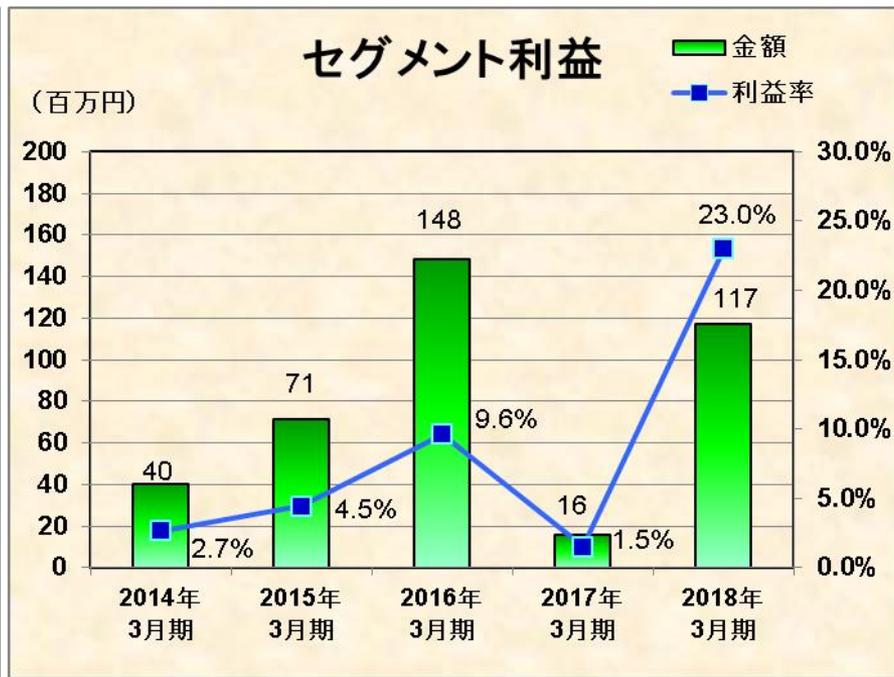
3. 常温食品事業<連結>…缶詰・珍味製品他の加工及び販売



【当期の状況】

- 増収増益
 - 高値の魚価による厳しい環境のなかサバやサンマなどの水産缶詰の拡販に注力
 - 原料価格高騰が続くイカ加工品は価格改定や規格変更のコストアップ対策を実施

4. 物流サービス事業<連結>…冷蔵倉庫事業

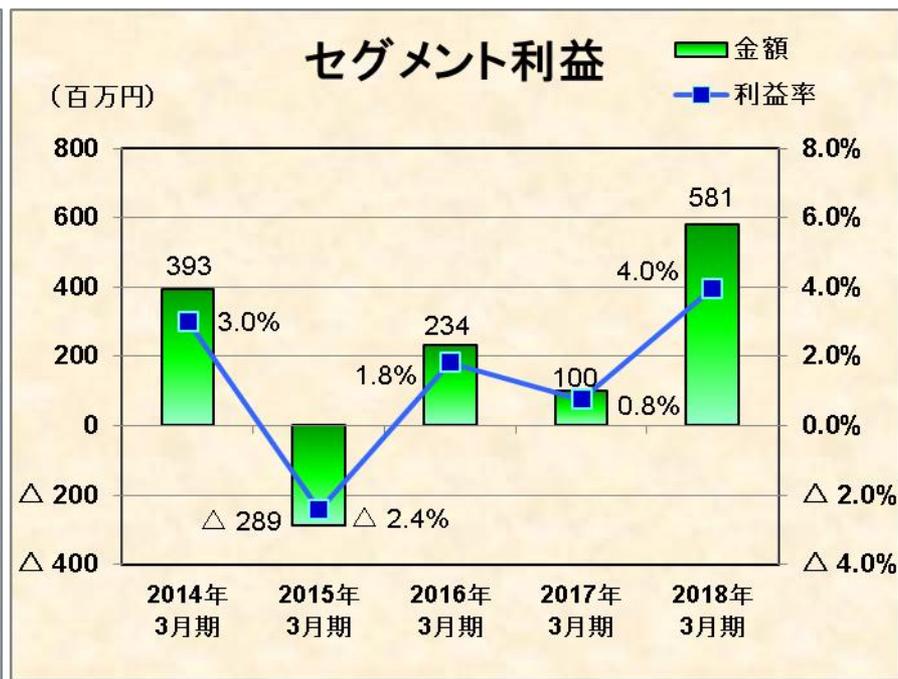
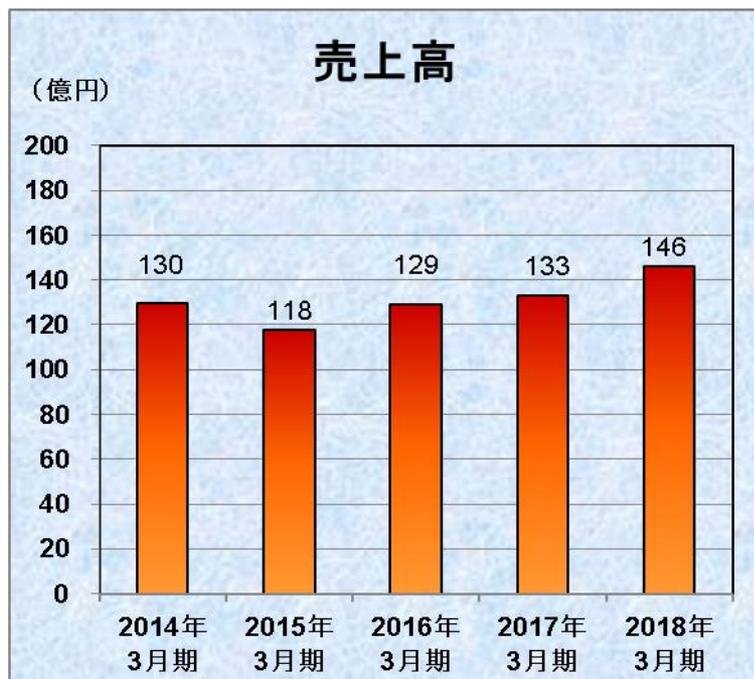


【当期の状況】

- 減収増益
 - 前期に冷蔵運搬船事業から撤退し売上は前年同期比で減少
 - 冷蔵倉庫事業は在庫貨物の確保を図り営業力を強化

※2017年3月期までは冷蔵運搬船事業を含む

5. 鰹・鮪事業<連結>…海外まき網事業・養殖事業・鰹鮪加工販売事業



【当期の状況】 □ 増収増益

- 《海外まき網事業》 ➤ 魚価が高値で推移し収支が大きく改善
- 《養殖事業》 ➤ 天然種苗の集魚体制を改善し稚魚を安定的に確保
- 《加工販売事業》 ➤ 外食・量販店向けにカツオたたきやネギトロ製品の販売が伸長

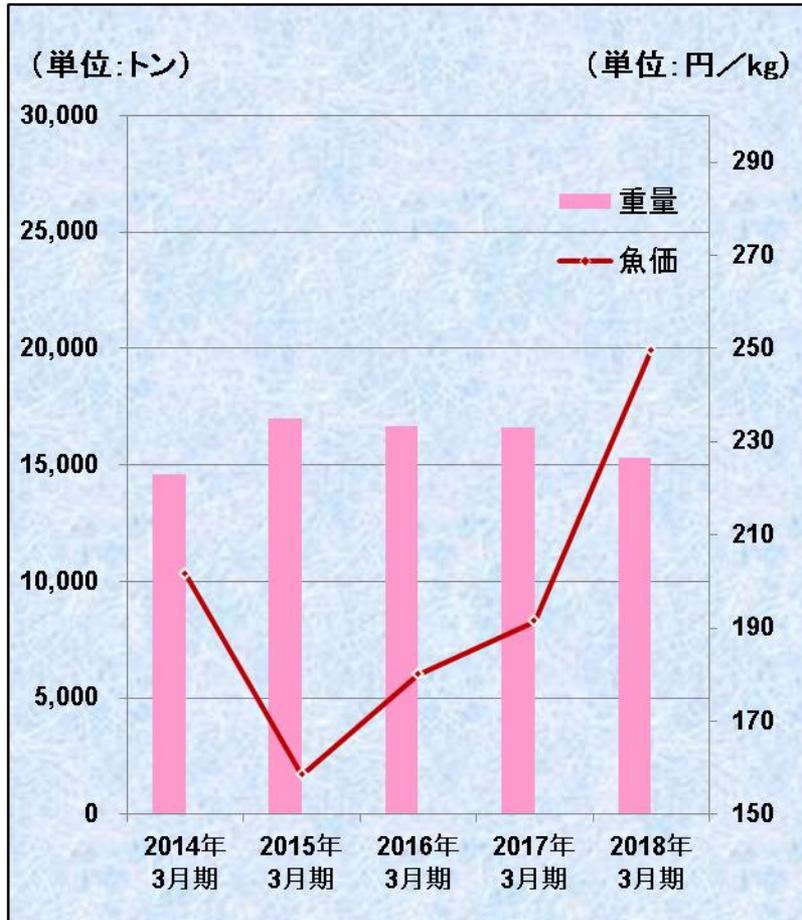


事業セグメント別の状況

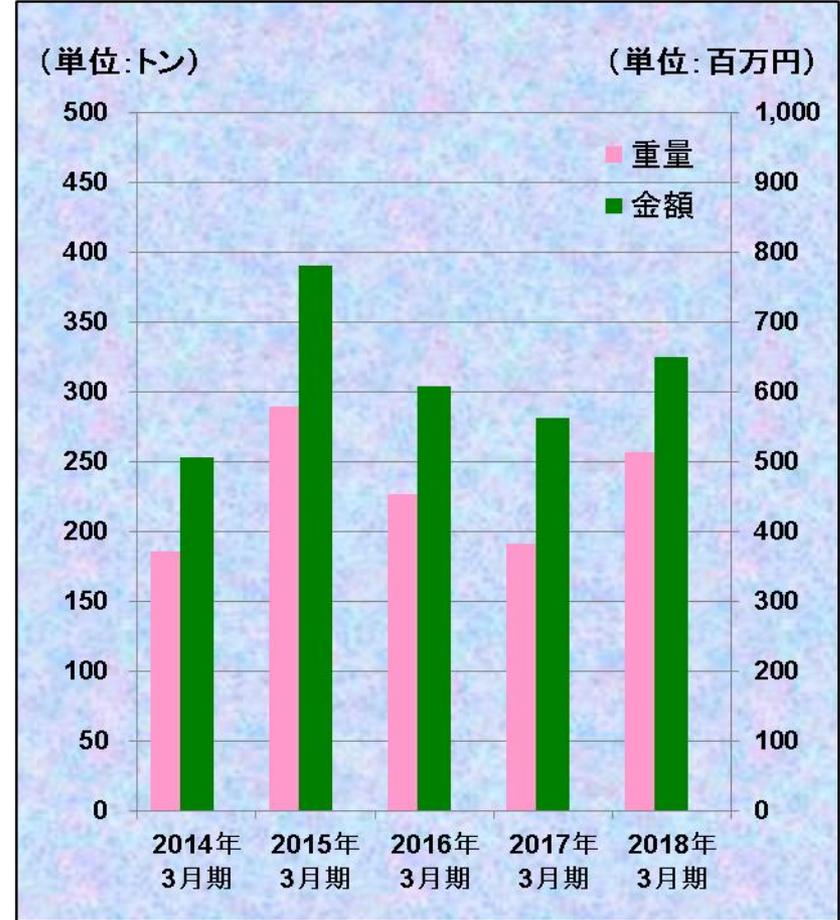


鯉・鮪事業(上半期)

〈海外まき網事業〉…水揚げ推移



〈養殖事業〉…売上推移





2018年3月期 下半期施策及び業績予想



事業セグメント別の施策



事業セグメント別の下半期施策

【水産商事セグメント】

- 世界的な需給バランスを考慮した仕入、販売、在庫管理
- グループのシナジーを発揮した付加価値商品の製造販売
- 海外拠点との連携による海外マーケットの積極的開拓

【冷凍食品セグメント】

- 自社工場を中心としたメーカー志向による一貫体制の確立
- 主要取引先との取り組みと末端への直接商談の推進
- 生産部門のコストダウンと商品開発力の強化

【常温食品セグメント】

- 大手量販店をはじめとした水産缶詰の販売強化
- 通信販売やECサイトなど販売チャネルの多様化
- 効率的な在庫管理による在庫回転日数の短縮

【鰹・鮪セグメント】

- 赤身及び鰹加工製品の生産力増強に伴う販売力の強化
- 地中海本鮪など脂物の取り扱い拡大
- 養殖本鮪の生鮮加工販売と完全養殖クロマグロのブランド化推進

【物流サービスセグメント】

- 年末需要期に向けた積極的な貨物集荷による庫腹率の向上



業績予想



事業セグメント別業績予想〈連結〉

(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2017年3月期 第2四半期実績	2018年3月期 予想	達成率	2017年3月期 第2四半期実績	2018年3月期 予想	達成率
水産商事	61,325	123,000	49.9%	1,546	2,500	61.9%
冷凍食品	34,334	79,000	43.5%	554	1,000	55.5%
常温食品	9,455	18,000	52.5%	220	300	73.6%
物流サービス	510	1,000	51.1%	117	200	58.8%
鯉・鮪	14,648	29,000	50.5%	581	900	64.6%
その他	182	0	—	△774	△900	—
合計	120,458	250,000	48.2%	2,246	4,000	56.2%



設備投資計画



	概要	2018年3月期 9月末実績	2018年3月期 計画
極 洋	塩釜新工場関連	1億円	2億円
	生産工場関連	1億円	2億円
	研究所関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	2億円
	IT関連その他	2億円	6億円
	計	5億円	13億円
関係会社	生産工場関連	2億円	10億円
	まき網事業関連	1億円	2億円
	養殖事業海上	0億円	1億円
	IT関連その他	1億円	3億円
	計	4億円	16億円
合計		9億円	29億円



本資料は、2017年9月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的として作成しており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なることがありますのでご承知おきください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極 洋 企画部 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。